


## 令和 4 (2022) 年度 研究サマリー

研究会名称	電解水透析研究会	
代表者所属	聖路加国際病院 腎臓内科	
代表者氏名	中山 昌明	
<p><b>【研究方法・結果】</b></p> <p>電解水透析研究会総会を2022年5月21日に開催。          前年度同研究会総会にて承認された「電解水血液透析患者の現況を把握する為の調査研究（聖路加国際病院倫理委員会承認済）」に関する報告および今年度の実施が承認された。          下記の通り調査/報告を行った。</p> <p>「電解水血液透析患者の現況を把握する為の調査研究（聖路加国際病院倫理委員会承認済）」の実施。          対 象： 電解水血液透析を年間6か月以上受けている患者          調査委内容： 患者背景・基礎特性。調査年における患者転帰・死因（転院後1か月以内死亡も含める）を横断的に確認。</p> <p><b>【結果】</b></p> <p>2021年12月末状況は、確認患者数12施設・1,392例（男性66%、平均年齢70歳、透析期間7.4年、HDF62%）、当該年1～12月で総死亡67例（平均年齢80歳、全透析期間105月、EHD43月）、粗死亡率4.8%だった。          死因は上位より感染症14.9%、心不全14.9%、悪性腫瘍13.4%、突然死6.0%、心筋梗塞、その他心疾患、カヘキシアがそれぞれ4.5%、脳卒中3.0%などであった。          JSDT国内データ（2015年・粗死亡率9.29%）を基準とした年齢調整死亡率は、EHDで4.04(対100例)、患者・調整死亡率指数は0.43だった。</p> <p><b>【考察と結論】</b> EHD患者の粗死亡率は国内患者と比べて低かった。その背景には感染症や心不全死亡が相対的に少ないことが関与している可能性がある。</p>		